

保護者の皆様

大阪府立住之江支援学校
校長 三宅 康寛

令和 7 年度 学校教育自己診断の集計結果について（報告）

時下、日頃より本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

学校教育自己診断のアンケートにご協力いただきありがとうございました。集計結果と考察、また、学校協議員の方からのご意見をまとめたものを、次の通りご報告します。

記

1. 評点の計算方法について（5件法）

- A：よくあてはまる B：まあまああてはまる → AとBを併せて肯定的回答
C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない → CとDを併せて否定的回答
E：わからない

2. アンケートの質問項目について

今年度は、保護者用と教職員用については昨年度から引き続き同じ質問項目で実施した。また、今年度より児童生徒用のアンケートの実施も開始した。内容については、児童生徒が自力で回答できるように理解しやすい質問項目にした。

3. 提出人数・提出率

(1) 提出人数（人）

| | 学部/年度 | 令和5年度 | | 令和6年度 | | 令和7年度 | |
|------|-------|---------|-----|-------|---------|-------|---------|
| 保護者 | 小学部 | 62 | 193 | 59/65 | 199/232 | 53/65 | 190/227 |
| | 中学部 | 59 | | 74/78 | | 67/78 | |
| | 高等部 | 72 | | 66/89 | | 67/84 | |
| 児童生徒 | 小学部 | / | | / | | 5/65 | 77/227 |
| | 中学部 | | | | | 25/78 | |
| | 高等部 | | | | | 47/84 | |
| 教職員 | | 110/110 | | 90/90 | | 86/86 | |

(2) 提出率

| | 学部/年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | | 令和7年度 | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 保護者 | 小学部 | 74.8% | 90.8% | 85.8% | 81.5% | 83.7% | |
| | 中学部 | | 94.9% | | 85.9% | | |
| | 高等部 | | 74.2% | | 79.8% | | |
| 児童生徒 | 小学部 | / | | / | | 7.7% | 33.9% |
| | 中学部 | | | | | 32.1% | |
| | 高等部 | | | | | 56.0% | |
| 教職員 | | 100% | | 100% | | 100% | |

4. 集計結果について（肯定的回答と否定的回答に分けての結果でパーセント表記とする）

（1）提出率

・今年度の保護者提出率も、昨年度よりわずかに下がったものの、80%を超えた。今年度も昨年度から引き続き Google Form と用紙を選択して提出できるようにした。また、昨年度同様、提出がない保護者には再度提出依頼文一式を配付して、提出率向上に取り組んだ。

児童生徒については、紙媒体を使用して学校で実施した。児童生徒の実施については今年度が初めてであったが、回答ができる児童生徒からはほとんど回収することができた。今年度、児童生徒用は1種類であったが、さらに提出率を上げられるように、より分かりやすいパターンを作成することも検討する必要がある。

教職員については、今年度も回収率 100%であった。来年度も引き続き Google Form を使ってアンケートを実施する。

（2）保護者、児童生徒及び教員の肯定的回答結果の分布

| 保護者 | 95%超 | 90%超 | 85%超 | 80%超 | 75%超 | 70%超 | 計 |
|-----|------|------|------|------|------|------|----|
| 項目数 | 10 | 7 | 1 | 2 | 3 | 0 | 23 |

| 児童生徒 | 95%超 | 90%超 | 85%超 | 80%超 | 75%超 | 70%超 | 65%超 | 60%超 | 計 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 項目数 | 0 | 0 | 2 | 7 | 1 | 4 | 1 | 0 | 15 |

| 教職員 | 95%超 | 90%超 | 85%超 | 80%超 | 75%超 | 70%超 | 65%超 | 60%超 | 55%超 | 50%超 | 計 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 項目数 | 4 | 10 | 4 | 5 | 2 | 3 | 3 | 1 | 1 | 2 | 35 |

5. 結果報告

（1）保護者アンケート結果で二桁を超えて高評価となった項目についての考察。

昨年度と比較して、今年度は同等程度の結果であった。

（2）保護者アンケート結果で過年度と比較して二桁を超えて低評価を受けた項目についての考察。

昨年度と比較して、今年度は同等程度の結果であった。

（3）保護者アンケート結果で上位評価項目（90%以上）についての考察

昨年度と比較して90%以上の項目数が13⇒17と増加した。特に95%以上の項目数は3⇒10と大幅に増加した。23項目中17項目が上位評価項目となり、約74%が上位評価項目であった。

| 項目 | 質問 | 考察 |
|----|--|---|
| 2 | 学校は、子どもの障がいについてよく理解していて、気軽に相談に応じてくれる。(96.8%) | 昨年度 89.4%であった。教員の児童生徒に対する正確な実態把握と、保護者との関係性の構築の取り組みによるものだと考えられる。 |
| 5 | 学習評価では、知識・技能の習得状況のみに偏ることなく、児童生徒が考えて表現したり、学習に意欲的に参加したりする姿などがバランスよく評価されている。(95.3%) | 昨年度 89.4%であった。本校の個別の指導計画の様式においては、知識・技能、思考・判断・表現、学習に取り組む態度の3観点で評価をしている。3観点評価については教職員の研修においてもテーマとして取り扱った。 |

(4) 保護者アンケート結果で下位評価項目（80%以下）についての考察

| 項目 | 質問 | 考察 |
|----|--|--|
| 10 | 学習活動に、大型テレビ、パソコン、タブレット等のICT機器が活用されている。(79.5%) | 昨年度は86.4%であった。各授業においては大型テレビ、タブレット等のICT機器の活用はされているが、児童生徒の学習活動において活用する機会を増やす必要がある。 |
| 11 | 運動会、校外学習、修学旅行などの行事は、子どもたちが楽しめるように工夫されている。(77.4%) | 昨年度と同程度であった。昨年度から新しく始まった学校祭の様子も考慮してもらえるように、質問の文言に学校祭についても記載する必要がある。 |

(5) 児童生徒アンケートで下位評価項目（70%以下）についての考察

| 項目 | 質問 | 考察 |
|----|--|--|
| 5 | 担任の先生以外にも保健室などで、気軽に相談することができる先生がいる。(67.5%) | 学年学部で支援する体制を取っているが、児童生徒が相談しやすい環境を整える必要がある。 |

(6) 教員アンケート結果で上位評価項目（90%以上）の評価についての考察。

教員アンケートにおいても、昨年度と比較して90%以上の項目が10⇒14へと増加した。

| 項目 | 質問 | 考察 |
|----|---|--|
| 11 | 児童生徒が将来の進路や生き方について考える機会を設けたり、一人ひとりが興味・関心・適性に応じた進路選択ができるように丁寧な指導を行っている。(92.4%) | 昨年度は80.0%であった。特に、小学部では昨年度69.2%⇒88.0%、高等部では77.8%⇒90.9%であった。小学部の児童が高等部の実習を体験したり、外部から企業の方に出席授業をしてもらったりするなどの取り組みによるものと考えられる。 |

(7) 教員アンケート結果で60%未満の評価についての考察。

| 項目 | 質問 | 考察 |
|----|---|--|
| 22 | 教職員はPTA活動に協力している。(54.3%) | 昨年度57.8%であった。PTA運営については、管理職・首席で担っているためであると考えられる。 |
| 28 | 初任者を含む経験の少ない教職員を育成するために学校全体で育成する体制がとれている。(57.6%) | 昨年度53.3%であった。わずかに増加であったがさらに向上が必要である。今年度は初任者・2年目の教員の研究授業の指導案作成について相談会を実施している。学校全体での経験の少ない教職員への支援体制を構築する必要がある。 |
| 35 | 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員は意欲的に取り組んでいる。(53.3%) | 昨年度54.4%であった。校務分掌が3分掌となり2年目であるが、分掌内の業務分担について課題があると考えられる。校務分掌検討委員会を実施して来年度以降の分掌の在り方について検討する。 |

6. 今後の課題

(1) ICT機器の活用

ICT機器の活用については昨年度からの引き続きの課題となっている。昨年度の課題であったICTの教材活用については、ICT教材バンクの準備を進めており、教員がICT機器を活用して授業を実施することはできているが、児童生徒がICTを活用する機会をさらに増やす必要があると考えられる。

(2) 初任者を含む経験の少ない教職員の育成

経験の少ない教職員の育成をするために、各教職員による個々の対応ではなく、学校全体で組織として育成できるような体制を作る必要がある。そのために、分掌だけでなく管理職・首席・学部主事なども含めたメンバーでの検討をすすめる必要がある。

(3) 学校教育自己診断アンケートの内容の見直し

現在の学校教育自己診断アンケートの質問項目になってから3年目となる。そのため、質問項目につい

ての見直しが必要となっている。質問項目数が多いため、必要な質問項目を残して質問項目を削減することにより課題に対して集中できるような内容にしていく。

7. 学校運営協議員からのご意見

- アンケートの取り方について、児童生徒が回答するのが難しい場合は意思決定支援をどのようにしていくのか検討が必要。
- ICT 機器の活用については、使っているか使っていないかではなく、必要に応じて使っているか、どのような場合に必要なのかを判断する必要がある。
- 小学部の保護者の回答において、進路についての設問で肯定的評価が低い結果となっている。小学部の時から教員も含めて、現在学習していることが中学部高等部また卒業後どのようにつながるかを意識する必要がある。
- アンケート調査について、項目が多いと回答が大変なので、少なくした方がよい。

アンケート集計表（保護者、児童生徒、教員）についても、本校のホームページに掲載していますのでご覧ください。